

V-5 子どものかむ様子

増田 純一

マスタ小児歯科・福岡市

総合咀嚼器官としての機能の健全な発達は、幼児期であればあるほど人間形成に深く係わりをもち、大脳・心・情緒・意欲等の発達をも促すと言われています。

しかし、今日ほど子ども達にとって豊かで平和な時代はないと思われませんが、その豊かさが逆に、子どもの心身を蝕んでいるようです。特に文化生活と言われる中で、食生活もグルメ嗜好となり、子ども達の食べ物嗜好もカレー・スパゲッティ・ハンバーグ等の軟らかい物が多くなり、いわゆる“噛めない”“噛まない”と言われる子ども達が多くなり、口の健全な機能の発達が脅かされています。さらに、人間の生きる基本である食欲さえも鈍くなってきています。

現在、平均寿命80年以上と言われる今日、これらの子ども達が果たして未熟な口腔機能で余生を積極的に生き抜くことが出来るか不安を感じざるを得ません。

そこで、口腔機能の出発点である幼児期から機能と形態をがっちりと鍛えておくことが大切だと思います。当医院において、子ども達の咀嚼の様子を8ミリビデオに撮り、観察することにより、その影響の重大さを痛感させられました。

8ミリビデオで子どもの咀嚼をクローズアップ撮影することにより自然な咀嚼の様子を記録し、咀嚼力の評価を行うとともに、咀嚼運動の異常な動き嚥下運動の異常、食塊形成の異常などを観察しました。その結果、子どもの食生活もとらえやすく、母親とのカウンセリングにも効果があるなど、興味ある知見を得たので報告します。